

海面を滑走する淡水性アメンボ (半翅目、アメンボ科) の追加記録 (2005 年)

Shin KUBOTA: An additional record of a fresh-water water slider *Aquarius paludum* (Hemiptera, Gerridae) glide on sea surface (2005)

久保田 信

アメンボ *Aquarius paludum* 3 個体が 2005 年に、和歌山県白浜町の 3 箇所の海岸で海面を滑走していた例を報告する。初めてこのような事象に遭遇した 2000 年 4 月以降 2005 年 8 月末までの約 6 年間で、計 7 回 32 個体を記録した報告 (久保田, 2004) に引き続き追加報告をする。

発見場所 和歌山県西牟婁郡白浜町の 3 地点: (1) 通称“黒潮台”の約 4 × 3 m の大きさで水深 0.5 m のタイドプール (図 1); (2) 瀬戸漁港内最奥部、水深 2 m; (3) 阪田に所在する近畿大学の養殖用いけす、水深 2 m

発見日時と観察時間 (1,2) 2005 年 4 月 9 日 14 時 30 分 (少なくとも干潮時の 1 時間滑走) と 17 時 30 分 (数十分間滑走); (3) 2005 年 7 月 7 日 17 時 10 分 (数十分間滑走)

考察

今年の 8 月末までに、淡水産アメンボが白浜

町の海岸で滑走するのに 3 回遭遇した。そのうちの 1 例は、既に報告済みの瀬戸漁港において、あとの 2 例はアメンボの滑走を初めて見た地点となった。これまでの約 6 年間に遭遇した月は、3, 4, 6, 10 月だったので (久保田, 2004)、今回の 7 月での遭遇は初旬ではあったが初例となった。

本 3 例が生じた経緯については、前報 (久保田, 2004) で、(1) 飛翔に疲れ、海面に着水・落下; (2) 降雨を避け、一時的な着水; (3) 淡水と間違えた着水、の 3 つの可能性を指摘したが、3 例とも (3) の理由か、あるいはそれ以外の未知の理由である。淡水域から自然に海域に流れてくることのない地点における淡水性アメンボの海面滑走は、依然として希少例のままであるが、白浜町でのこれまでのすべての目撃事例において、淡水での活動と同様に海面での滑走は軽快で支障が認められなかったことから、白浜町以外の各地でもこのような事例が生じていると推測される。

引用文献

久保田 信. 2004: 海面を滑走するアメンボの記録. KINOKUNI, (65), 9-10.

京都大学フィールド科学教育研究センター
海域ステーション瀬戸臨海実験所
(〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459)
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science
Education and Research Center, Kyoto University,
Shirahama, Wakayama 649-2211, Japan

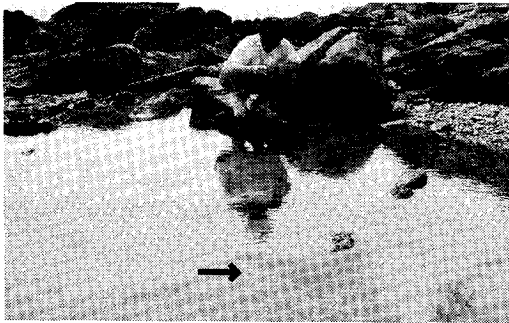


図 1 和歌山県西牟婁郡白浜町通称“黒潮台”のタイドプールで滑走するアメンボ (→)